

新建あいち

2026.11月号

新建愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ（2022年4月～）

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■ 第15回「新建賞2027」を募集します

2021年以来の久しぶりの募集です。今回は、初めて、新建以外の人にも募集の枠を広げました。「新建賞」だから、新建の会員だけと思っているのが当たり前だったのですが、集まりの中で、「新建」を知ってもらうためにも、他の団体や建築に携わる方への周知として、初の試みとなりました。今までも、新建会員と一緒に、地域での様々の活動を継続的にされてきている方なども対象になります。「新建」の活動を知って頂き、「新建」に参加される方も、少しずつですが、広がっています。

また、今回は、応募者の方にも資料だけではなく、プレゼンテーションの機会を設けて、オンラインによる、応募者の気持ちや意見が、審査委員の方にも届くようなことを行います。審査委員の方も、そのほうが、応募者に質問や聞いてみたいことも確認ができるため、手間はかかりますが、折角応募をして頂いた、活動や気持ちを届けてみませんか。

「新建賞」は、ハードルが高いのではなく、これまでの自分の仕事や活動を見つめ直す、良い機会です。自分だけではなく、自分の支部の会員が普段何気なくされている継続的な活動も、全国の皆さんにも知ってもらう、とても大切な機会だと思います。

「新建賞」の申込みなどの詳しい詳細は、「新建築家技術者集団」のホームページより、ご確認をして頂き、是非この機会に、たくさんの応募を期待しております。

応募の締切は、2027年1月29日必着です。（「新建賞」募集案内ちらし添付）



■ 秋を探して散策

9月は雨の日が多く、山歩きも街歩きもできませんでしたが、10月に入ると好天続きです。岐阜県恵那市の明智町にある『あけちの森』と『大正村』の散策に出かけて一足早く秋を楽しんできました。

JR恵那駅から明智鉄道に乗り換えたのですが、予想以上に乗客が多く驚きましたが、恵那市や岩村町、明智町がテレビドラマ「VIVANT」のロケ地になったのが理由と知りました。また明智鉄道ではラッピング列車が走り、車内もポスターなど「VIVANT」一色で、同行者たちにもわか鉄ちゃんになり、いいタイミングで乗車できたと喜んでいました。

テレビドラマのチカラって凄い!!

（奥野）



■ 不安な時代と居住福祉

～居住福祉と生活資本の構築(190)

岡本 祥浩

戦争、紛争、排除に円安、物価高。そして日本の国内総生産(GDP)が世界第6位(10月12日に国際通貨基金(IMF)の見通しで、日本の名目国内総生産(GDP)がインド、英国の両国に抜かれて世界6位になることが明らかになった)に転落。私たちは、今、不安な時代に居るようだ。こうした現在を読み解こうとする論考が出されている。それらを通して「居住福祉」の必要性が強く感じられた。

曖昧な弱者の時代

伊藤(下記参考文献参照)は今の時代を次のように解釈している。明確な貧困者や弱者に社会的支援が行われる一方で、これまでの中間層のボリュームが減少している。中間層から貧困者や弱者の立ち位置に近づいていると感じる人が増えている。そこで、生活水準の維持のために、社会的支援を受ける適格性の競争が生まれていると言う。限りある社会的支援を自分たちが受けるには、明確な貧困者や弱者のボリュームを小さくする必要があると考える。社会的支援を受ける適格性の争いが起こり、弱者や貧困者を排除する社会の動きが醸成されていると言う。明確な弱者ではない曖昧な弱者に光が当たっている時代だと解釈している。

右傾化する日本

島原(下記参考文献参照)は、外国人を排除しようとする右傾化する日本社会を解き明かそうとしている。そこにヴァンス副大統領が著した「ヒルビリーの悲劇」を社会や産業の中心に位置していたアメリカの労働者の悲劇を重ね合わせている。その悲劇とリベラルな政治を結びつけ、発展途上国や移民にその原因を求めている。それが、反オバマや移民排斥に結びついていると言う。日本社会ではこの30年間の停滞を通して生活水準の向上を感じられない人々や貧困状態の人々が、その要因を外国籍の人々に重ね合わせ易くなっていた。それが今、顕在化してきたと考えられる。

生活苦と不安、恐怖に対抗する居住福祉

ニューヨーク市長選のママダニ旋風に見られるようにアメリカ社会の共和党側から民主党側への変化を指摘する報告(下記参考文献参照)もある。その背景には物価高騰や生活苦があるとされ、地方都市にも波及していると言う。

いずれの論考にせよ、現在社会に潜む貧困への恐怖が人々を突き動かしているように思える。我々の居住が保障されていれば、人々の貧困への恐怖は緩和され、お互いに排除したり攻撃の対象としたりしないのではなかろうか。一人ひとりの人に相応しい居住が他者への配慮を生むのではないか。今まさに「衣食(居住)足りて礼節を知る」を肝に銘じ、居住を保障しなければならない時代に至った感じる。

【参考文献】

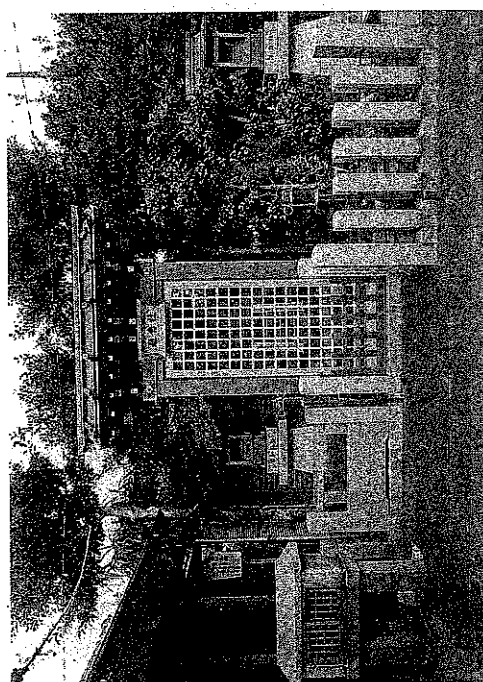
- ・伊藤昌亮(2026)『曖昧な弱者の時代』(岩波新書 2112)
- ・島原万丈(2026)「右傾化する日本で寛容を問い直す」LIFULL HOME 's 総研『在留外国人の居住実態と日本人の意識に関する調査 -右傾化する日本で寛容を問い直す』p. 1～23
- ・山口哲人(2026)「岐路の米国 中間選挙 2026 中 ママダニ旋風 生活苦の地方に波及」2026年10月15日付『中日新聞』5頁

(中京大学教授、新建会員)

歴史から見た町名 (十八)

直来町 (なおらいちょう) (瑞穂区)

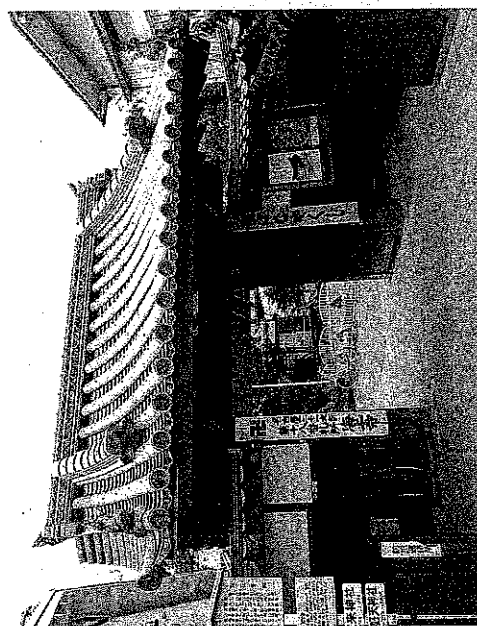
高田小学校北、道路を挟んで、やや高台に直會(なおらい)神社があります。この神社は、近隣の人から、のうらい神社、のうらいさんと呼ばれて親しまれてきました。現在の直来町の名称はこの神社によるものです。直會神社は、寿永2年(1183)に木曾義仲が源義経に敗れて都落ちの途中、同行の側室かつら姫が「できもの」(腫瘍)によつてこの辺りで亡くなり、ここに葬られたのが始まりと云われています。姫の墓に植えられた神木である榎木(えのき)の下の小石で患部をなでると治癒すると伝えられ、おできの神様、病気の神様、のうらい様とあがめられました。「直會(なおらい)」とは神祭に際して、神様のお供え物をおろして、司祭者や氏子達が神前で酒食をともにすることをいいます。



直會神社

昭和6年、当時行われていた、東部耕地整理組合による、耕地整理事業が完成し、この時、新町名が施行され、この辺りを直會神社にちなんで直来町としました。これ以前の南区熱田東町、南区瑞穂町の一部分から成立したものでありますが、行政区の変遷から昭和12年に昭和区、同19年に瑞穂区となり現在に至っています。直會神社の境内には昭和10年に建てられた、東部耕地整理組合の事業完成の碑が建てられています。

同じ町内、直来神社のやや東には乳花(ちばな)薬師と呼ばれる海上寺があり、母乳満足と幼児の息災守護を祈願するために、今でも多くの人々の信仰を集めています。古くからこの地方の人々の崇敬を集める神社と寺院がもとになって生れた町であると言つことができます。



海上寺(乳花薬師)

■ 新建愛知支部 2026 年 9 月 支部幹事会だより

9 月 16 日（水）19：00～21：00（リアル＆オンライン）

参加者／入谷、奥野、河合、黒野、中森、福田、甫立

- (1) 建築とまちづくり in 埼玉（最寄り駅は浦和駅）が、10/3～参加申込を HP から受付中です。
- (2) 全国幹事会 9/13 で、「被災者支援」緊急の声明を確認しました、詳細は、HP を確認して下さい。
- (3) 新建賞の開催の準備と検討会議をしています。決まり次第、詳細を報告させていただきます。
- (4) 建築基準法の改正などについての、仕事での経験や意見交流、勉強会を開催しようと思います。
- (5) 皆さまから、企画・見学会案を募集します。楽しく勉強と交流のできる企画をつくりませんか？

今後の幹事会は、10/21（水）、11/18（水）、12 月 16 日（水）午後 7 時で日程の確認をしました。

■ みえ四日市市 ギャラリー侶居(ろきょ) 浦田杏梨 展へ

先日、JR 四日市付近の古民家ギャラリー【侶居】さんへ伺いました。いなべ市の浦田杏梨展です。

私の家の近くの喫茶店主（鈴鹿）がギャラリーで 9/13 に茶を出す、ということでお誘いを受けました。

作家さんも在廊で、蠟（ロウ）を使った作品の方で、下の写真は古い蚊帳（かや）にロウが塗ってあり、経年変化も楽しめる作品とのことでした。蚊帳やボロ布・古材が本当に愛おしいそうです。ほかに花瓶のようなロウ作品もありました。いなべ市阿下喜（あげき）にアトリエがあるそうで、月 1 回開放していて、なんと元新建三重の川瀬開発不動産さんの 2 軒となりとのことでした！

喫茶店主が出してくれたお茶は FUEKI RYUKO（不易流行）という九州のブレンド茶で、飲んだのは、有機緑茶・黒文字・ゆず・茶花・ハッカのアイスティ。ロウ作品に合わせたオリジナルの生菓子と共にいただきました。古民家の中、芸術に囲まれて、香り高いお茶と美しい和菓子…。

ギャラリーは古民家の 2 階建てで、オーナーの奥様のご実家ということです。解体予定だったところ東京にいらしたご夫婦が、リフォームしてギャラリーにしようと決断されたそうです。1 階は L 字土間空間がギャラリーになっていて、中央が板間小上りと水場・階段があります。そこへ机椅子を置いて 8 人程度入る喫茶室となっていました。2 階は床の間のある 6 帖ほどの和室で展示空間となっています。

古民家空間、展示と喫茶空間、作品と茶・菓子が一体となって、もてなされる場所づくりに、久しぶりに鳥肌が。不易は永遠性、流行はその時々の新風の体、共に根元はひとつ。 （黒野晶大）

